

研究・調査報告書

報告書番号	担当
324	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Association between alcohol consumption and diabetic retinopathy and visual acuity—the AdRem Study. アルコール消費と糖尿病性網膜症および視力との関連：AdRem 研究)	
執筆者	
C. C. Lee, R. P. Stolk, A. I. Adler, A. Patel, J. Chalmers, B. Neal, N. Poulter, S. Harrap, M. Woodward, M. Marre, D. E. Grobbee and J. W. Beulens,	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Diabet. Med. 27, 1130–1137 (2010)	
キーワード	
アルコール消費、糖尿病性網膜症、視力	
要 旨	
<p>目的： 2 型糖尿病患者においてアルコール摂取と糖尿病性網膜症および視力低下との関連を検討する。</p> <p>方法： 2 型糖尿病を有する 1,239 人のコホート調査対象者（55-81 歳）の分析を行った。この対象者はいわゆる ADVANCE trial (the Action in Diabetes and Vascular Disease: Preterax and Diamicron MR Controlled Evaluation) のサブ研究である。ワイン、スピリット、ビールの現在飲酒および過去飲酒を自己報告に基づき計測した。中等度、多量飲酒を一週間辺りそれぞれ 1-14 ドリンク、> 14 ドリンクと定義した。糖尿病性網膜症は瞳孔散大させた 7 領域の網膜立体写真にて測定し、2 段階の Early Treatment of Diabetic Retinopathy Study (ETDRS) スコアあるいは網膜症性血管病変の存在にて定義した。視力低下は次のように定義した。視力補正し良好なほうの眼をもとに二線の減少あるいは Snellen チャートを用いた小穴を通じて評価した。</p> <p>結果： 平均 5.5 年の追跡期間中に、182 人の参加者が 2 段階 ETDRS スコアの進行があり、640 人において網膜症性欠陥病変を認めた。また 693 人が視力の悪化を認めた。非飲酒者に比べて、現在飲酒者は網膜症の存在や進行と特に関連を認めなかった。しかし、視力の増悪とは関連していた（多変量調整オッズ比 1.83; 95% 信頼区間 1.34-2.48; P < 0.001）。</p> <p>結論： 2 型糖尿病の患者において、アルコール摂取は視力の悪化と関連していたが、網膜症との関連は認められなかった。</p>	